サービスラーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科２年　原　裕太
活動先：NPO 法人　共育ネットはんだ
クラス：野尻　紀恵　先生

サービスラーニング活動を通して私は３つのことを学んだ。人と人とのつながりの大切さ、他者への感謝の大切さ、そして地域の存在ということである。人と人とのつながりがどんなものなのか正直分からなかった。世の中には一人で生きているという人もいれば周りの支えがあるからこそ生きているという人もいる。どちらが正しいのかは分からないが私は周りの支えがあるからこそ人は生きられていると考える。そう思えるようになったのは共育ネットはんだでの活動をしたからである。共育ネットはんだでは様々な出会いと体験を通して「子どもたちを共に育み 子どもたちと共に育ちあう」ことを活動理念としている。活動理念の中にある「共に育み・共に育ちあう」という言葉からも、やはり一人ではなく周りの支えがあるということが分かる。活動を実際にやり利用者の保護者や活動先のスタッフ、そして代表の水野さんのお話からも、人と人とのつながりが大切だということを教えてもらった。共育ネットはんだに「びりぃぶ」という活動があり、そこの参加者は障害を持った子どもである。サービスラーニングの活動の中で「びりぃぶ」の参加者の子どもの母親と話す機会があった。母親たちはわが子の自慢を飽きることなく笑顔で話をしてくれた。しかし笑顔で話をするまでには相当の苦労があり、笑顔に変えることができたのは共育ネットはんだの存在が大きかったようである。そこで同じ苦労をしている人と出会い、共に共感し合い、そこでつながることができたそうだ。母親の一人から人と人とのつながりは大切にしなさいと言われた。このようなことが言えるのはやはり自らその大切さを知っているからだと考える。次に他者への感謝の大切さである。感謝という言葉をよくこの活動の間、聞いた。代表の水野さんと初めて会ったときにこの出会いに感謝と言われた。感謝ということについて深く考えたことがなかったが、活動が始まり活動が終わる頃には私自身、感謝することが多くなったと思う。例えばどんな小さなこと些細なことでも有難いなと思ったときに「ありがとう」と伝えるようになりそのときの相手の嬉しそうな表情を見ることが自分自身うれしくなっていたのである。そして、他者から「ありがとう」と言われとすごく嬉しかった。当たり前のことだと思うが、他者に感謝を伝えることはなかなか照れくさいことである。活動の中で子どもからお父さん、お母さんへの感謝をテーマとして学生企画を行った。やはり子どもたちは照れくさかったのか恥ずかしそうにしていたが、きちんと思いを告げることができていた。代表の水野さんから子どもたちにあのような機会を与えてくれたことに感謝、と言われたときはやりがいを感じることができた。最後に地域の存在である。今回、活動をするときに学校の教室や体育館を借りたり、近くの畑を借りたりと地域資源を使わせてもらった。そして活動ごとに地域の人が一緒に

なって活動に協力してくれた。活動を行う上で地域との関わりがなければ地域を拠点とした活動は不可能だと考える。地域の理解がなければ狭い思いをして生活をしなければいけなくなる人がいる。誰もが他人のことを考えて生活していくことができればきっと住みやすい地域となるが、それは簡単なことではないということを知った。多くの人に知ってもらえるように積極的に地域イベントに参加し、知ってもらうということも大切だなと学んだ。この活動を通して人が地域で生活するうえで他者との関わり、つながり、感謝の気持ちがないと本当の地域福祉が成り立たないと感じた。

私がサービスラーニング活動から見えてきたことは、ＮＰＯは空間を大切にしているのでは、ということである。例えば古民家を施設として活用しているところは多くあり、私が活動をさせてもらった共育ネットはんだも古民家を事務所、活動場所として活用されている。そもそも古民家を使うのはなぜだと疑問に思った。考えられることは金銭的に余裕がないため古民家を使うしか方法がないということ。もう一つ考えられるのは自分の家のような感覚で過ごしてもらうためということではないかと考えた。このことについてあるＮＰＯ法人にアンケートを取った。アンケートの結果は私が考えた二つの内一つが当てはまったのである。それは自分の家のような感覚で利用してもらいたいというそのＮＰＯ法人の活動理念であった。人間は落ち着ける場所というものが必ずあると考える。多くの人が「家」と答えると思う。私も下宿先や実家が落ち着ける場所である。古民家を使うのにはそのような人間の精神面にも気をつかい、利用者の支援に当たっていると考えるとすごいなと考えてしまう。ただ利用者に必要な支援だけをしていたのなら利用者と支援者の関係は縮まることはまずないと考える。ＮＰＯにとって空間というのは建物の空間だけではなく環境と言った方が当てはまりやすいのではないのか。その人に合った環境を作るだけでその人はいくらでも変わることが出来ると考える。環境を作るというのは簡単なことではない。そしてＮＰＯ法人が積極的に活動して、より良い地域を作るための取り組みを行っていることを改めて知ることが出来たと思う。

最後に、ＮＰＯが色々なところで活動しそれぞれのやり方で支援をしていることについて考える。ＮＰＯがそのようなことが出来るのは、やはりその地域の協力があるからこそできるのではないのか。そして地域の理解があるからこそ、その地域で生活が出来ているのではないのかと考えることができる。自分が生まれ育った地域でずっと生活していきたいと考えるのは、誰もが考えることであり、どんな病気を持っていても、どんな障害を持っていても、その考えは同じだと思う。その人がここで暮らしたいと思ったら、地域に住む周りの人が協力し支援してあげることがより良いと思う。私が今回、共育ネットはんだで活動させてもらい地域の大切さ、人と人との協力やつながりが大切だ、ということを学ぶことができた。この経験は自分にとってはとても大きな、大切なものであり、今後の大学での勉強、将来のことにつなげていきたい。この経験が無駄にならないように日々、生活を送って行きたいと思う。